

日本アジア投資株式会社
2024年3月期 第2四半期
決算補足資料

決算発表日:2023年11月14日

いつもお世話になります。

日本アジア投資株式会社 代表取締役社長の下村でございます。

2024年3月期の第2四半期決算につき、ご説明いたします。

1. 総括	P3
2. 当四半期の実績(前年同期比較)	P4
3. 中期経営計画(行動計画)の進捗状況	P9
4. 業績予想	P11
5. 参考情報	P13

本資料内の業績数値は全て従来連結基準にて表示しております。

本日まで説明するのは、このうち1番から4番までです。

なお、当社では、ファンド連結基準と従来連結基準の2つの連結数値を開示していますが、ここでは従来連結基準でご説明いたします。

- ✓ 当四半期の実績(対前年同期比増減)
 - 営業収益426百万円(△36.3%)、プロジェクトの売却が無く減収
 - 親会社株主に帰属する四半期純利益△560百万円(赤字幅95百万円縮小)
 - 売却した株式の利益率が高く、評価損や引当金の繰入額も減少したため、赤字幅が縮小

- ✓ 中期経営計画(行動計画)の進捗状況
 - ファンド：事業承継を支援する2号ファンドが総額51億円でファンド組成を完了(10月)
 - 再生可能エネルギー：栃木県で3件のメガソーラープロジェクトの開発を推進
 - 障がい者グループホーム：建設中・建設予定の8棟の竣工後取得につき建設会社と合意

- ✓ 業績予想
 - 上期実績は上期の業績予想対比、営業収益達成率81.3%、赤字幅△150百万円拡大
株式の売却が一部下期にずれ込み、売却損も発生したため、予想から下振れ
 - 通期の業績予想に変更なし
 - 業績予想達成の要となる未上場株式とプロジェクトの売却実現に注力

まずは全体の総括です。

当四半期の実績は、営業収益が4億2千6百万円となりました。前年同期から36.3%の減収です。親会社株主に帰属する四半期純利益は、5億6千万円の損失となり、赤字幅は前年同期に比べ9千5百万円縮小しました。

中期経営計画に掲げた行動計画は、順調に進捗しています。ファンドの設立では、事業承継を支援する2号ファンドが、15の金融機関から出資を受け、ファンド総額を51億円まで拡大して組成を完了しました。再生可能エネルギーでは、足利銀行からの融資により、栃木県で3件のメガソーラープロジェクトの開発を推進しています。9月には、このうち1件の発電所が竣工しました。ヘルスケアプロジェクトでは、障がい者グループホームの開発で、建設中や今後建設予定の8棟を、竣工後に取得することで建設会社と合意しました。

業績予想については、上期の実績は予想と比較して、営業収益の達成率は81.3%となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、赤字幅が1億5千万円拡大しました。しかしながら下期にこれらを補う見込みのため、通期の業績予想に変更はありません。なお、通期の業績予想には、下期に計画している未上場株式の売却とプロジェクトの売却が含まれおり、その実現が達成のかなめとなります。現在、売却候補先の開拓や売却交渉を行っており、これらの実現に向けて鋭意注力して参ります。

2. 当四半期の実績(前年同期比較)



ハイライト

P5

営業収益・営業原価内訳

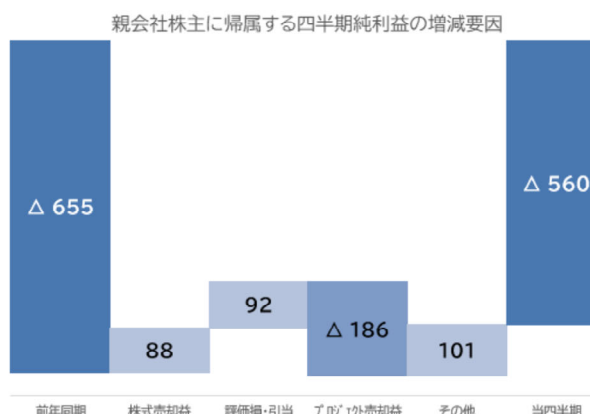
P8

それでは、実績について、前年同期との比較でご説明いたします。

2. 当四半期の実績－ハイライト P/L



(単位:百万円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減率
営業収益	669	↓ 426	△36.3%
営業原価	715	↓ 420	△41.3%
営業総利益	△46	6	-
販管費	552	542	△1.9%
営業利益	△598	△535	-
経常利益	△640	△558	-
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△655	↑ △560	-



- ✓ 減収要因:
プロジェクトの売却が無かったため(前年同期は2件の売却あり)
- ✓ 赤字縮小要因:
営業原価が減少
 - ・ 利益率の高い株式の売却が進捗したため売却原価が減少
 - ・ 評価損や引当金の繰入額が減少

こちらはPLのハイライトです。

営業収益は、4億2千6百万円となりました。前年同期から36.3%の減収です。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、5億6千万円の損失となり、赤字幅は前年同期に比べ9千5百万円縮小しました。

減収の要因は、プロジェクトの売却が無かったことです。これに対し、前年同期には、メガソーラープロジェクトと物流施設の、合計2件の売却がありました。

赤字幅が縮小した要因は、営業原価の減少です。利益率の高い株式の売却が進捗したため、売却原価が減少しました。また、評価損や引当金の繰入額も減少しました。

2. 当四半期の実績－ハイライト B/S



(単位:百万円)	2023年3月期末	2024年3月期 第2四半期末	増減率	主な増減要因(単位:億円)
総資産	13,413	↓ 12,147	△9.4%	
うち 現預金	2,464	↓ 2,032	△17.5%	返済△5、投融資△8、費用等△2、回収+11
うち プロジェクト投資(引当後) (営業投資有価証券・貸付金)	6,053	6,007	△0.8%	投融資実行+5、分配・売却等△5、持分損益△0.9、含み益+0.4
うち 戦略投資(引当後) (営業投資有価証券)	782	813	3.9%	投資実行+0.3
うち フィナンシャル投資(引当後) (営業投資有価証券)	3,301	↓ 2,746	△16.8%	投資実行+2、分配・売却等△4含み益△2、評価損・引当△2
借入金	5,142	↓ 4,633	△9.9%	返済△5
自己資本	7,518	↓ 6,800	△9.5%	損失△5、含み益△2

- ✓ 総資産は投資回収により減少、フィナンシャル投資資産の回収が進捗
- ✓ 現預金は借入金の返済と投融資の実行により減少
- ✓ 借入金は約定に基づく返済により減少
- ✓ 自己資本は損失計上と含み益減少に伴い減少

こちらはBSのハイライトです。

総資産は、121億4千7百万円となり、前年同期末から9.4%減少しました。

現預金は、借入金の返済や、投資や融資の実行により減少しました。

フィナンシャル投資資産は、投資回収が進捗したため、減少しました。

借入金は、約定に基づく返済を行いました。

自己資本は、損失の計上や含み益の減少により減少しました。

2. 当四半期の実績－ハイライト C/F



(単位:百万円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期
営業活動によるCF	126	↑ 385
投資活動によるCF	△0	1
財務活動によるCF	△494	△509
CF増減額	△342	△115
期末残高	2,055	1,646

✓ 営業CF: 投資回収の進捗に伴い、前年同期から収入額が増加

次にキャッシュ・フローです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、投資の回収が進捗したことから、前年同期に比べて増加しました。

キャッシュ・フロー全体では、1億1千5百万円減少し、キャッシュの期末残高は16億4千6百万円となりました。

2. 当四半期の実績－営業収益・営業原価内訳



(単位:百万円)	合計		プライベートエクイティ投資		プロジェクト投資	
	2023年3期 第2四半期	2024年3期 第2四半期	2023年3期 第2四半期	2024年3期 第2四半期	2023年3期 第2四半期	2024年3期 第2四半期
営業収益	669	426	361	401	308	25
管理運営報酬等	69	79	65	76	3	3
営業投資有価証券売却高	441	281	292	281	149	0
組合持分利益・インカムゲイン等	136	32	0	31	135	0
その他営業収益	22	32	2	12	19	20
営業原価	715	420	520	321	195	98
営業投資有価証券売却原価	320	132	230	131	90	0
営業投資有価証券評価損・ 投資損失引当金繰入額	275	183	275	183	-	-
組合持分損失等	113	97	12	4	100	92
その他営業原価	6	7	1	1	4	5
営業総利益	△46	6	△159	79	113	△73

✓ プライベートエクイティ投資:増収・増益

- ・営業原価(売却原価):売却損が発生した一方で利益率の高い株式が売却されたため、前年同期から減少
- ・営業原価(評価損・引当金):事業進捗の遅れている投資先に引当金を計上したものの、前年同期からは減少

✓ プロジェクト投資:減収・減益

- ・営業収益(売却高、組合持分利益・インカムゲイン等):プロジェクトの売却が無かったため減少(前年同期にはメガソーラープロジェクト1件と物流施設1件の売却あり)

次に、営業収益と営業原価について、科目別・投資資産別の内訳をご説明します。

プライベートエクイティ投資は、増収・増益となりました。

営業原価では、「営業投資有価証券売却原価」が減少しています。株式売却により損失の発生した取引がありましたが、一方で、利益率の高い株式の売却が進捗しました。その結果、売却原価全体では、前年同期から減少しました。

また、「投資損失引当金繰入額」も減少しました。事業進捗の遅れている投資先に対して引当金を計上したものの、前年同期との比較では減少しました。

プロジェクト投資は、減収・減益となりました。

その要因は、プロジェクトの売却が無かったためです。前年同期には、メガソーラープロジェクト1件と物流施設1件の売却がありました。

当四半期の進捗状況

P10

ここからは、中期経営計画に掲げた、行動計画の進捗状況についてご説明します。

3. 中期経営計画(行動計画)の進捗状況－当四半期の進捗状況



	2022年3月期～2024年3月期 (3年間)の行動計画	2024年3月期第2四半期 (6か月間)の進捗状況
プライベート エクイティ投資	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存資産を流動化し資産の入替を完了 ✓ 3本の新規ファンドを組成 ✓ 既存戦略投資先のExit支援、新規分野で戦略投資の実行 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 投資先企業の日本システムバンク㈱がIPO ✓ 事業承継を支援する第2号ファンドが総額51億円でファンド組成完了(10月)
再生可能 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ベトナムの屋根置きソーラー、国内のバイオガスへの投資を拡大 ✓ 国内メガソーラーは完成後に順次売却し売却益を計上 	<p>栃木県で3件のメガソーラープロジェクト開発を推進、うち1件が9月に竣工</p>
ヘルスケア (障がい者グループホーム)	<p>大手銀行、リース会社とのファンド組成により50棟に投資を実行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自社開発案件2棟が8月営業開始 ✓ 建設中・建設予定の8棟の竣工後取得につき建設会社と合意、9月に1棟目を取得
新規事業開発	<p>既存投資テーマの周辺分野、及びコロナ禍に対応した事業テーマから将来の収益の柱となる新規事業を開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 樹木葬プロジェクトの第1号案件が、東京都港区光円寺で開園・販売開始 ✓ 電動アシスト自転車のサブスクリプションサービス事業向けの車体に積極投資

こちらは、中央に3年間の行動計画を記載しています。その右側が、この上期6か月間の進捗です。

プライベートエクイティでは、IPO実績は1件でした。ファンドの実績は、10月に事業承継を支援する2号ファンドが組成を完了しました。最終的に、15の金融機関から出資を受け、ファンド総額は51億1百万円となりました。

再生可能エネルギーでは、足利銀行からの融資により、栃木県で3件のメガソーラープロジェクトの開発を推進しています。9月には、このうち1件の発電所が竣工しました。

ヘルスケアプロジェクトのうち障がい者グループホームでは、自社開発案件2棟が8月に営業を開始しました。なお、これまでは全ての案件を自社で開発していましたが、今般、建設会社との協業により、建設中や今後建設予定の8棟を、竣工後に取得することで合意しました。自社開発の場合に比べて、完工リスクを低減するとともに、投資から収益化までの期間を短縮できる見込みです。

新規事業開発では、樹木葬や電動アシスト自転車への投資が進捗しました。

4. 業績予想



当四半期の進捗状況と通期業績予想

P12

将来情報についてのご注意

P13

ここからは、業績予想についてご説明します。

4. 業績予想－当四半期の進捗状況と通期業績予想



単位:百万円	2024年3月期 第2四半期 実績	上期見込 (2023年5月発表)	進捗率	通期見込 (2023年5月発表)	進捗率
営業収益	426	525	81.3%	2,300	18.6%
営業原価	420	325	129.3%	1,000	42.0%
営業総利益	6	200	3.2%	1,300	0.5%
販管費	542	570	95.1%	1,100	49.3%
営業利益	△535	△370	-	200	-
経常利益	△558	△410	-	120	-
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△560	△410	-	120	-

- ✓ 上期の実績は営業収益達成率81.3%、赤字幅△150百万円拡大
- ✓ 上期中に見込んでいた株式の売却が一部下期にずれ込み、見込外で売却損も発生のため見込みから下振れ
- ✓ 下期にずれ込んだ株式の売却は、期末までに完了見込み
- ✓ 見込外で発生した売却損は、評価損や引当金の繰入額の減少により補う見込み
- ✓ 通期業績の要となるのは、比較的投資金額の多額な未上場株式の売却と、プロジェクトの売却の実現
- ✓ 第3四半期までは赤字の見込み

こちらは、業績予想の上期の進捗状況と、通期の見込です。

上期の実績は、上期の業績予想と比較して、営業収益の達成率は81.3%となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、赤字幅が1億5千万円拡大しました。営業収益が未達となった理由は、上期中に見込んでいた株式の売却の一部で、売却時期が下期にずれ込んだためです。赤字幅が拡大した理由は、期初には見込んでいなかった売却損が発生したことにより、営業原価が見込額を超過したためです。

しかしながら、下期にずれ込んだ株式の売却は、期末までに完了する見込みです。また、上期に発生した売却損は、評価損や引当金の繰入額の減少でカバーできる見込みです。評価損や引当金の繰入額は、保守的な見地から、期初の時点では前期から増加すると見込んでいました。しかしながら、上期の発生額は期初の見込みを下回って推移しています。下期も同じ状況が続くことになれば、通期の評価損や引当金繰入額が期初の見込みよりも減少する見込みです。そのため、通期の業績予想に変更はありません。

一方で、通期の業績予想には、比較的投資金額の多額な未上場株式の売却と、物流施設や障がい者グループホームプロジェクトの売却が含まれています。下期にこれらの売却を実現することが、業績予想を達成するためのポイントとなります。現在、売却候補先の開拓や売却交渉を行っており、これらの実現に向けて鋭意注力して参ります。

なお、第3四半期累計期間まで、親会社株主に帰属する四半期純利益は赤字となる見込みです。

3. 中期経営計画(数値)の進捗状況－将来情報についてのご注意



- ✓ 業績予想につきましては、当社グループが展開するプライベートエクイティ投資はその事業特性上株式市場等の変動要因による影響が極めて大きく、加えて昨今の変動の激しい環境下においては合理的な業績予想が困難なため、当社は業績予想を行っておりません。
- ✓ しかしながら、投資家及び株主の皆さまの利便に資するべく、業績予想に代えて、ある一定の前提を元に策定した「従来連結基準による見込値」を、数値の確度は低いものの、参考情報として開示しております。
- ✓ なお、当該「従来連結基準による見込値」をはじめとする本資料に掲載されている全ての将来に関する記述は、当社が現時点において入手している情報及び一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の数値は様々な要因により記述されている内容とは大きく異なる可能性があります。

最後に、業績見込値をご利用になるうえでの注意事項についてご説明いたします。

当社では、その事業特性上、合理的な投資損益の見込みが立てづらいために、業績予想は開示しておりません。しかしながら、少しでも投資家の皆さまのご参考になればと考え、一定の前提のもとで策定した「従来連結基準の業績見込値」というものを、あくまで参考情報として、公表しております。

その前提条件については決算短信に記載しておりますので、皆さまには、これを踏まえて見込値をご利用頂ければと存じます。

また、今後開示すべき事象が生じた場合には、適時適切に開示をまいります。

以上で、私からのご説明は終了となります。

ご清聴ありがとうございました。